

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172500274		
法人名	有限会社 地人協会		
事業所名	グループホームポランの家(ユニット1)		
所在地	余市郡余市町大川町8-11		
自己評価作成日	平成27年8月17日	評価結果市町村受理日	平成27年10月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172500274-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 9 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①介護理念である「尊厳性の保持」の具体的なケア場面における実践 ②運営理念である職員の「自主管理」的考え方の実践。主体的に生活支援課題を発見し、そして考へ他の職員と合議し協働の実践。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは代表者が福祉事業所に勤務していた経験を活かし平成17年に開設しています。利用者の尊厳を重要視した理念に沿い、職員は実践に努めています。代表者はホームが地域の方々に支えられていることに感謝し、町内会の役員を務めています。さらに、当ホームのみならず北後志地区グループホーム全体の向上に努め、各事業所と協力関係を構築しています。職員は、「ポランの家」がこの地にあって良かったと地域の方々に思ってもらいたい、利用者への寄り添いを第一に考え、一人ひとりの思いにどのように応えられるかを模索しながら、日々自己研鑽に努めている「グループホームポランの家」です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時、具体的場面で理念の共有化に努めている	利用者一人ひとりの尊厳を重要視した運営理念とその意義を具体的に示した介護理念を策定しています。職員は、会議や日常業務の中で理念の実践を確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に運営推進会議の委員さんになっていただくでなく、各種お祭りの協賛、町内会の役員にも付き、日常的交流があるよう努めている	代表者は、地域からの支援に感謝し、町内会の役員を務めています。利用者は、余市神社祭では近所の方と一緒に神輿を迎えたり、音楽喫茶でお客様と言葉を交わしています。体験学習や吹奏楽披露、三味線、バイオリンコンサート等で訪れる中・高校生、ボランティアとの交流を楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的にホームの機関紙を発行しているが、それを町内会の方にも配布し、このことに努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	特に健康状態とその支援について報告すると共にホームの理念をご理解いただけるよう努め、また評価にともなう家族アンケートの結果なども報告している。また行事などにも参加していただいている	運営推進会議は定期的に開催され、ホームの現状報告後に各委員から出される運営に関する質問や提案等に対しホームとしての姿勢を説明しています。委員からの要望で「ボランの家通信」に利用者の日常生活の写真を載せています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員にもついていただき、相互の関係性構築に努めている	行政とはホームとしての協力体制はもとより、代表者は北後志地区や余市グループホーム協議会の役員を担っており、連携を構築しています。地域全体としての防災関連等の課題に向けて協議を続けています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的場面で何が拘束なのか「マニュアル」をファイル化し拘束の状態が発生しないよう努めている。	身体拘束防止に関しては各種参考マニュアルのほかに、ホーム独自で作成した「実践と論理」等で理解を深め、実践に努めています。利用者の状態により布団に鈴を付ける場合は、家族と十分に協議し、同意を得ています。玄関は夜間のみ施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護理念である尊厳性の保持と密接な関係性がある事柄であるため、特にこのことは管理者が注意を払っている。また綱領的な物も作成しこの事に努めている。また意識しない中で結果的に処遇上、好ましくない場面无いように注意を払っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に管理者は研修会等に参加し、このことに努めている。ミーティング等で情報を提供しながら学習をしている。認知症の方に係る権利擁護とは日常生活の中で認識と実践化に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族のみの見学、説明ではなく、ご本人にも感覚的に安心して生活できる場所としての説明と自己決定を重視している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族のご来訪時、あるいは運営推進会議メンバーの家族代表からもお気持ち、意見等を聞く努力をしている。	家族には来訪時や定期的に発行する「ボランの家通信」でホームや利用者の様子を伝えています。利用者や家族から運営に向けての意見や提案が出された場合は、職員間で検討して迅速に運営に反映させるよう努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階のチーフをとおし、ボトムアップを図るばかりでなく個別的にもできる限り面談をするようにしている	代表者は常にホームの全体像を把握しており、職員からの積極的な意見や提案を運営に反映しています。職員には有給休暇のほか介護や看護休暇制度を設け、職場環境の整備に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定年制の廃止、ホーム独自の看護・介護休暇制度をつくり労働環境の改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	具体的ケア場面でスーパービジョンの実践と研修参加の啓蒙に努めている。また困難な対応が想定される時は、ロールプレイを実践している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホーム同士の協議会に加盟して交流を深めている。新年会、事例研修会など。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、特に1週間ここは安心して住める場所だということを感じてもらうよう努めて。安心できる言葉がけに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に将来的なことについて不安をお持ちの家族が多いため、このことについてホームの考え方を伝え、安心して頂いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に、このことは利用者の立場に立つと見方、感じ方が変るという認識のもと努めている。可逆的関係性の原理を学ぶ		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	この認識がなければ、独善性はまぬがれないと考えて話しきれない中に、何が在るのかを知り、信頼関係を構築していく		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方の生活歴への肯定的態度を上手に表現するよう努めている	日々の関わりや家族からの情報を参考に、利用者一人ひとりの生活様式や社会的繋がりへの把握に努めています。職員は、利用者の要望に沿って自宅等に同行しています。お盆の時期には家族と交流する場面があるなど、馴染みの関係を大切にしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビング内の人間関係の把握に努め安定した生活ができるようリビングサポートに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退居されても見舞いに行ったり、家族の相談にのっている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を把握し、ご本人の口からでる言葉を結びつけ、心中を察することに努めながら、その対応ができるようにしている	職員は、利用者が安心して暮らせるようコミュニケーション能力を高め、会話や身振り、表情等で利用者の根底にある思いの汲み取りに努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族のお話、或は介護認定調査票の複写による把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル管理・温度表管理とう日動変化の波を把握しながらその現状把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝のカンファレンスを総括する形でモニタリング、アセスメント、プランニングの手順を踏んでいる。極力ご家族への説明責任を果たす努力をしている	介護計画は、関わりの中から把握した利用者や家族の生活に対する要望と医療関係者の意見を踏まえ、職員全員で検討して作成しています。定期見直しや急変時は利用者の現況に応じた計画書になっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	同上及び介護記録で実践		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者を生活者と位置づけ、その全体性に係る努力をしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	この問題はグループホームの性格上、医療機関との関り程度である		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまで入居前の主治医を継続して来たが、重度化に対応するため「往診体制」に切り替えつつある。当然家族との合意形成を図りながら。	かかりつけ医への受診は利用者や家族の要望を尊重しています。受信時には家族の協力も得ながら看護師や職員が同行しています。協力医院や主治医の往診体制も整い、利用者の健康状態を関係者と情報共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は毎朝のカンファレンスに参加し、介護職員からの報告をうけこのことを実践している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は頻繁に職員が訪室し、現状を把握しながら、家族と共にムンテラを受け、医療情報を共有することを努めている。また施設機能の変更もありえるため、所謂老人医療機関との関係構築には努力している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	家族ケースワーク、主治医とのムンテラをとおしこのことを実践している	重篤時におけるホームとしての指針を作成し同意書を整備しています。医療行為が生じた場合は主治医が家族に説明し、今後の方針を関係者と協議しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習会参加、急変時の夜間対応など（看護師への連絡・救急車の手配）マニュアル化している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施と、福祉施設間どうしの協力体制の構築実践	年2回夜間想定避難訓練や消防職員指導の下で消火器の使い方、通報訓練等を行っています。さらに「北後志地区や余市グループホーム協議会」と災害時に於ける協力体制を構築しており、地区全体の課題として災害対策に取り組んでいます。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当ホームの介護理念であるため、このことは職員がお互い注意を払い合い実践している	理念の中にも利用者一人ひとりの尊厳性と人権の確立を謳っており、職員はその実践に努めています。ケアサービス時には、職員間でも互に注意し合える体制が出来ています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難しい自己決定はなかなか困難だが、ご本人の感覚を大切にしたいと考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員も入居者の方たちの時間的波長に合わせる努力をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	老いて行く「疎外感」を軽減するため身だしなみには気をつけている。特に整髪には気をつけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事も大事な日常生活なので、できうる限り皆で準備をし、食事が楽しくなるように努めている。	献立と食材は宅配されていますが、行事食はホームで用意しています。菜園の収穫物を活用したり、「こどもの日」は利用者と一緒にべこ餅を作り、「勤労感謝の日」は手動製麺機でうどんを作るなど、会話を楽しみながら食卓を囲んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を毎日記録しながら栄養管理・水分管理・健康管理に努めている。また摂取が機械的にならないようにも気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出きる・不十分・出来ないなど能力面を見ながらこのことに努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録の中でその方のパターンを把握し、不快状態の軽減に努めている	職員は、利用者一人ひとりの排泄状態を把握しています。仕草などから察知し、羞恥心に配慮しながらトイレへ誘導しています。衛生用品の使用は最小限にとどめています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録の中で、毎朝下剤等の調整をしている。ここに乳酸菌を飲むなど工夫している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	ご本人の体調・気分に合わせてながら入浴をして頂いている	入浴は週2回を基本とし、利用者の心身の状態に考慮しながら支援しています。無理強いせず言葉かけなどで入浴に繋げ、清潔保持に努めています。入浴時間はコミュニケーションの場となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	人間のバイオリズムを考え、一日の流れを考えている。例えば「黄昏時」にはテンションの高いアクティブは避けるように。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特に薬が変更になったような場合、その変化について十分観察する事につとめている。カンファレンスでこの事の徹底を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中から、メリハリのある生活はその人にとっては何なのか、理解し実践するよう努めている。そうした生活への賞賛が大事と考えている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ただ単に外にでるばかりでなく、地域の方と交流できる場に出かけるよう努めている。地域の「歌声喫茶」など。	利用者は職員と一緒に散歩がてら海を見に行ったり、余市川のほとりにある食堂でジンギスカンを食べながら桜やリンゴの花を觀賞したり、音楽喫茶でケーキとコーヒーとお喋りを楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使うか使わないかは別として、金銭を持つという安心感を考え、小銭の入った財布は大方の人は持っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信の保障、人権と言う考え方で支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい環境は、心地よい精神状態になると考えている。このためこのことには日常的に努力している	ホーム全体が清潔感にあふれています。玄関や廊下、居間などの共有空間には、さり気なく花が活けられたり装飾物や利用者の作品も飾られ、落ち着いた空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングサポートの中で、落ち着く場所を重視している。さりげなく新聞が置いてある等々の気配りに努めている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室空間は家族的安定欲求の一つでもあるため、和む空間づくりに努めている。居室での移動性の安全も考えながら。	入居時に利用者や家族に普段から使用しているものを持参してくださいと伝えています。利用者は、馴染みの物に囲まれて自分の部屋として過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面を考えながら、認知症の方一人ひとり夫々に使い勝手が良い様に工夫している		